

2018年度 本州太平洋におけるサケ回帰状況 (第2報：1月31日現在)

国立研究開発法人水産研究・教育機構
東北区水産研究所 沿岸漁業資源研究センター

本州太平洋側のサケ来遊数について、最終報として1月31日現在の状況をお知らせします。

1. サケ来遊概況

1月31日現在の本州太平洋側(竜飛岬から東の青森県～茨城県)におけるサケ来遊数(沿岸漁獲数と河川捕獲数の合計)の累計値は598万尾(前年同期:133%)と前年を上回っているものの、平年同期(1989～2016年の平均値1,348万尾)との比較では44%という状況であり、1989年以降では5番目に少なく低調となっています(図1)。

河川捕獲数の累計値は78万尾(前年同期:130%)と前年を上回り、平年同期(128万尾)との比較では61%となっています。

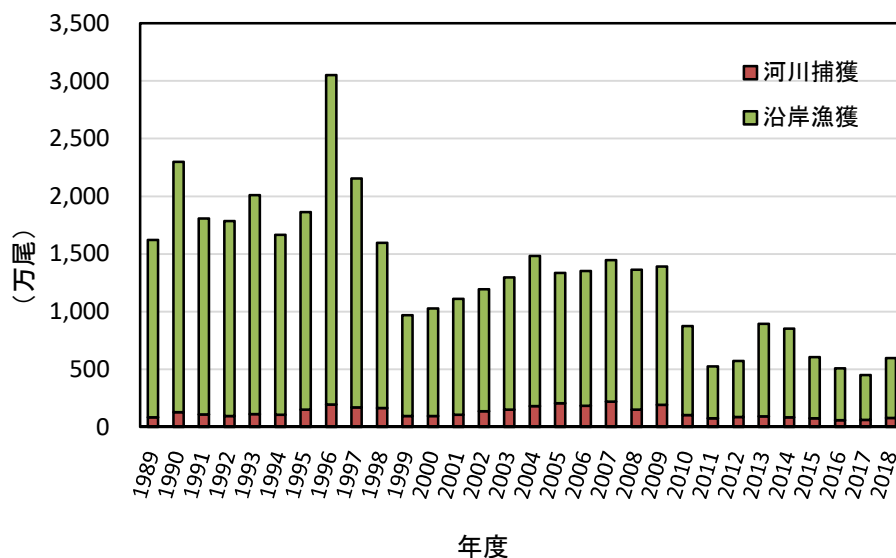


図1 1月31日時点の本州太平洋側におけるサケ来遊数(累計値)の経年変化

2. 年齢別河川捕獲数

本州太平洋側の主要河川のうち、年齢が判明している12河川(図2左)について、年齢割合に河川捕獲数を乗じて、過去10年間で比較しました。

青森県

2018年の4年魚の捕獲数は、いずれの河川においても前年を大きく上回っており、過去10年間では奥入瀬川で2番目に多く、川内川および新井田川では過去の平均的な値となっています。3年魚及び5年魚はいずれの河川も過去10年間で低調となっています。捕獲数全体としては、いずれの河川も前年を上回りますが、過去10年間では奥入瀬川で4番目に多く、過去10年間の平均値との比（以下「平年比」と呼ぶ）は120%である一方、川内川及び新井田川ではそれぞれ4番目（平年比85%）、5番目（平年比77%）に少なくなっています（図2右）。

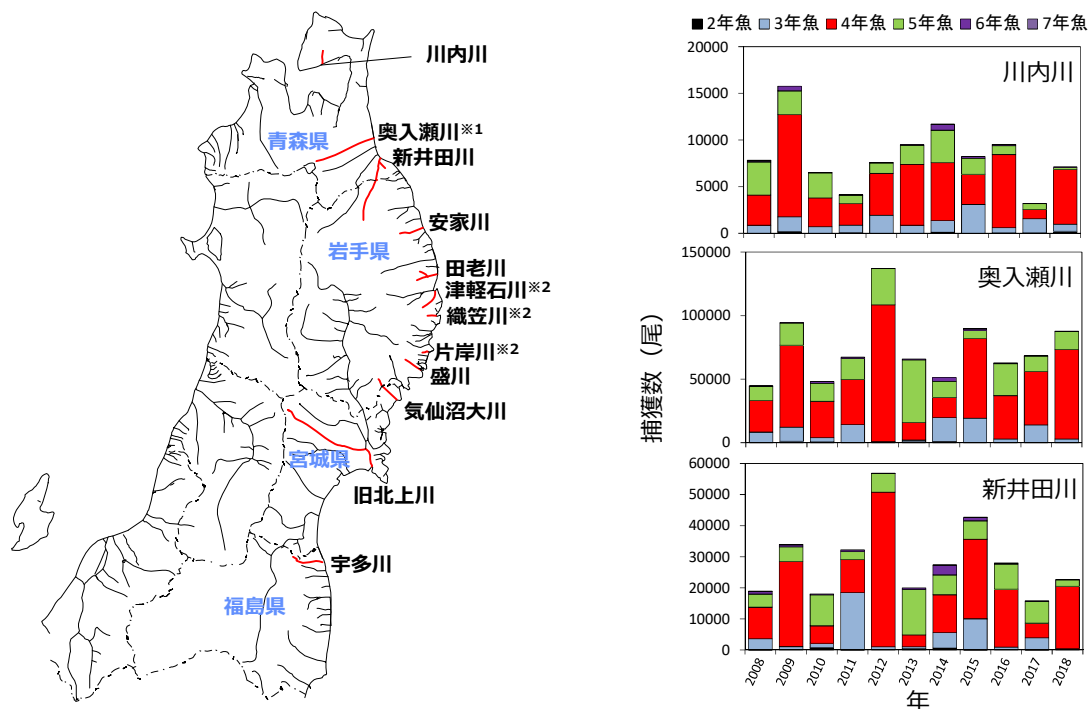


図2 調査河川（左）と青森県調査河川の年齢別河川捕獲数（右：1月31日現在までの累計値）

※1：地方独立行政法人青森県産業技術センターのデータ ※2：岩手県水産技術センターのデータ

岩手県

2018年の4年魚の捕獲数は、いずれの河川も前年を上回っており、過去10年間では安津軽石川を除き好調です。津軽石川は中間的な順位ですが平年比では73%と少なくなっています。3年魚及び5年魚はいずれの河川も過去10年間で低調となっています。捕獲数全体としては、いずれの河川も前年を上回りますが、安家川は2番目（平年比153%）、盛川は4番目（平年比104%）に多く、田老川、織笠川及び片岸川は中間的な順位でそれぞれ平年比67%、113%、75%となっています。一方、津軽石川は3番目（平年比55%）に少なくなっており、河川により状況が異なっています（図3）。

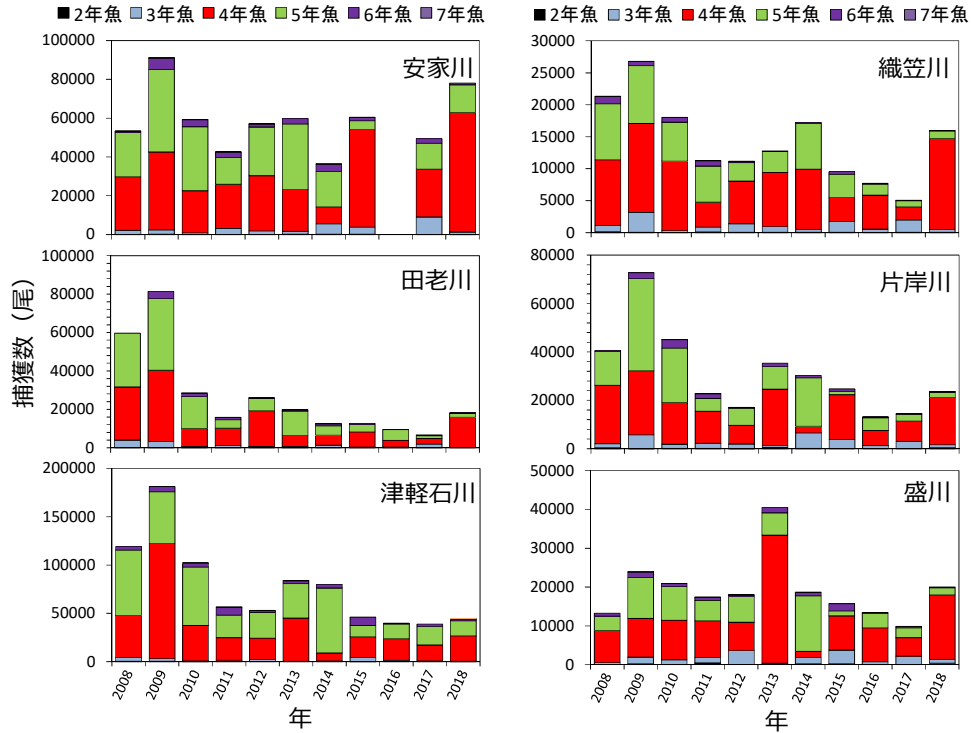


図3 岩手県調査河川の年齢別河川捕獲数（1月31日現在までの累計値）

宮城県

2018年の4年魚の捕獲数は、気仙沼大川で前年を上回り、旧北上川では前年並みとなっており、過去10年間では両河川とも過去の平均的な値となっています。3年魚及び5年魚は両河川とも過去10年間で低調となっています。捕獲数全体としては、気仙沼大川は中間的な順位ですが、平年比64%と少なく、旧北上川は平年比72%で3番目に少なくなっています（図4）。

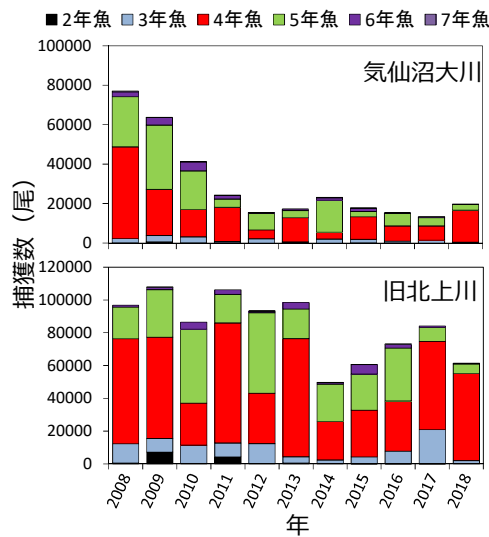


図4 宮城県調査河川の年齢別河川捕獲数（1月31日現在までの累計値）

福島県

宇多川の2018年の4年魚の捕獲数は、前年を大きく上回り、過去10年間で3番目に多くなっています。3年魚及び5年魚は過去10年間で低調となっています。捕獲数全体は中間的な順位で平年比94%となっています(図5)。

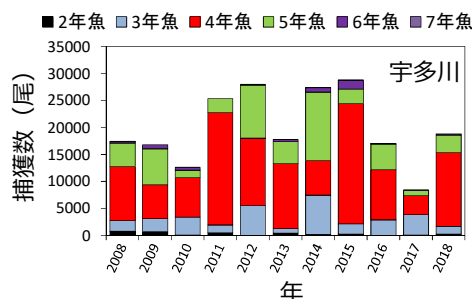


図5 福島県調査河川の年齢別河川捕獲数(1月31日現在までの累計値)

3. 年齢別来遊数

上記、12河川の年齢組成情報を基に本州太平洋側における年齢別の来遊数を推定し、年間で比較しました。主力となる3年魚、4年魚、5年魚はそれぞれ前年同期の20%、196%、90%となっており、4年魚で前年を大きく上回りますが、3年魚及び5年魚で前年を下回っています。4年魚は過去10年間で3番目に多い一方、3年魚および5年魚は最も少なくなっています(図6)。過去に来遊数が大きく減少した2010年以降でも2018年は低水準でした(図1)。主力の4年魚の来遊数が最近年では健闘した一方で、それに次ぐ5年魚、3年魚が極端に少なかったことが、2018年が低水準となった要因の一つとして挙げられます。

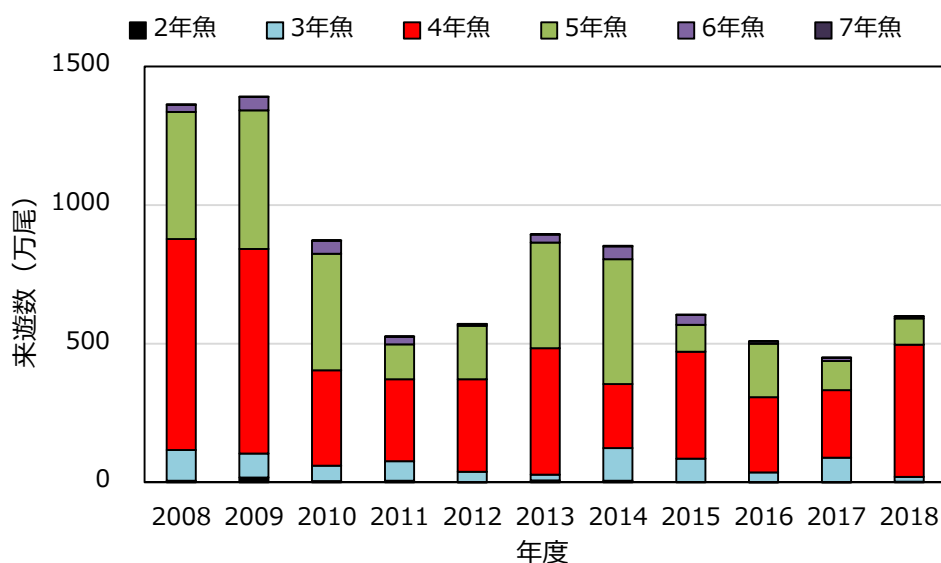


図6 1月31日時点の本州太平洋側におけるサケ年齢別来遊数(累計値)の経年変化